

2007年 **新年あけましておめでとうございます。**

今年が良き年となりますようお祈り致します。

## 1月の季語 福寿草(フクジュソウ)

春を呼ぶ「福寿草」は、キンポウゲ科の植物。新年にはPCのデスクトップもすっきりとクリーンアップし、福寿草の花を飾って、清々しい年を迎えました。

### 黄は日差し集むる色や福寿草 藤松遊子



福寿草は春を真っ先に告げる、日差しに敏感な花で、夜や曇りの日は花を閉じてしまいます。

短い花のあと春のあいだは、葉を茂らせ高く伸びますが、夏の前には枯れて、地上から姿を消してしまいます。

福寿草のほかにもイチリンソウ、カタクリなどの1年のうち3~4ヶ月しか姿をみせない“スプリング・エフェメラル”と呼ばれる植物は、早春の日差しを集めて咲く妖精のよう。姿の隠し方も妖精なみで、庭に植えた場合は、よく場所を覚えておかないと、掘り起こす心配があります。

## 慈姑(クワイ)



お正月のおせち料理に欠かせないクワイ。独特のほろ苦さと歯ざわりのしゃり感がおいしくて、食べだしたら止まりません。特に小さいものを素揚げにすると、止まらない美味。クワイは、見てもかわいいでしょう？

すり潰したり、輪切りにしてから、油で揚げる食べ方もあるようですが、それだとかわいい形がなくなってしまうので、形のまま素揚げにして、くりくりした姿を端から食べるのが、いいようです。私はこれを見ると、小学校の入学式を思い出します。小さな頭が整列して、真面目な表情をしているように見えるのです。

クワイをおせちに入れるのは、「芽が出る」の縁起の良さに因むことなので、入学式を思い浮かべるのは、おかしな連想

でもないようです。そして、調理するときには、「芽」が折れないようにするのが、決まりごと。年の初めは縁起かつぎが多いですね。



## クワイの葉

英名は arrowhead で、葉が矢尻型からの命名。写真は、群馬大学社会情報学部の青木繁伸氏撮影。<植物園へようこそ>掲載写真。

クワイの主産地は広島県福山市、そして、収穫時期はちょうどお正月に重なる冬。レンコン、田芋、タロイモと同じように水田で栽培する作物なので、この時期、冷たい水に入って収穫する栽培農家に感謝していただきます。

## お正月の食べもの「福づくし」

つやつやとした黒豆は、まめで達者に暮らせるようにと願いを込めて食べる、鏡餅は福が重なるように大小の餅を重ねて飾るなど、お正月の食べ物は、色や形や言葉の語呂合わせなどから縁起をかついだものが多くあります。

そこで、「福づくし」のように食べものの縁起かつぎを集めてみました。

伊勢海老；威勢えび

海老；腰が曲がる、長寿の願い

数の子；鯀(にしん)の腹子なので二親(にしん)から子ができる子孫繁栄

かまぼこ；半円が初日の出

栗きんとん；金の塊を意味し、金運を開く

黒豆；まめで達者に暮らせる

くわい；芽が出る

紅白なます；人参の赤と、大根の白でめでたい色

水引や熨斗などの祝いごとに使う色

ごまめ；五万米と書き、豊作祈願、五穀豊穡のシンボル

片口いわしを田の肥料として使っていたことから「田作り」ともいう

昆布巻；昆布がよるこぶに通じる

里芋；子芋が鈴なりになることから子孫繁栄

鯛；えびす様が鯛抱えている、めでたいの語呂合わせもあり、祝儀に贈る魚

橙；代々(だいだい)続く

伊達巻；伊達巻など巻物を書物に見立て、教養が身につく

ちょろぎ；千代呂木

れんこん；れんこんの穴から、先の見通しがよくなる

おせち料理の形が出来上がったのは、江戸時代中期~後期にかけてと言われますが、縁起かつぎにも江戸の機知が感じられます。

## お正月の漢字

依代、注連飾り、蓬萊山、寿ぎ、新魂

鮑結び、熨斗、掛柳、末広、三蓋松

読みにくい漢字が勢ぞろいしましたが、日本のお正月の行事、様式に関する言葉です。

よりしろ、しめかざり、ほうらいさん、ことほぎ、あらたま、あわびむすび、のし、かけやなぎ、すえひろ、さんがいまつ